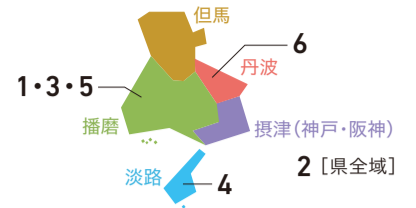


旬トピ! 県内各地が“パビリオン”になる

～ひょうごフィールドパビリオン特集～



1 美しい海に囲まれた 県内随一の漁業の島です



姫路港から定期船で約30分、美しい海に囲まれた坊勢島は、瀬戸内海国立公園に含まれる大小44の島々から成る家島諸島の一つ。周囲約11kmと小さく、山が海岸まで迫り平地が少ない地形のため、急斜面に家々が立ち並ぶ独特の景観が広がっています。大半の家庭が漁業に従事しており、活気に満ちた港には漁船がずらり。その総数は800隻ともいわれ、県内で1、2を争う漁獲高を誇っています。釣り人も多く訪れるほか、全国でも珍しい漁業見学船「第八ふじなみ」に乗っての漁業見学やブランド魚「ぼうぜ鯖」の餌やり、海鮮バーベキューなど、島ならではの非日常体験が観光客を魅了しています。



港には絢爛(けんらん)豪華な紋が彫られた漁船も。

坊勢特産の
味のり(920円)と
焼のり(370円)、
家島えびカレー(520円)を
セットで5人にプレゼント

応募方法は7面へ



2 世界的ブランド「神戸ビーフ」は 生まれも育ちも兵庫県の“箱入り牛”です



甘みのある赤身と細かく入ったサシ(脂肪)が極上の味を織り成す最高級ブランド和牛「神戸ビーフ」。霜降りの度合いや肉のきめ細かさなど、厳しい認定基準を満たすものだけに与えられる称号です。素牛となる「但馬牛」は、県外の牛と一切交配せず、繁殖から肉牛としての出荷まで全てを兵庫県内だけで行っています。新温泉町にある「県立但馬牧場公園」では放牧された但馬牛が見られるほか、併設する「但馬牛博物館」で但馬牛の歴史や神戸ビーフのおいしさの理由を学べます。



2018(平成30)年にリニューアルした但馬牛博物館。館内には昔の農家住宅を再現した「農業遺産体験館」も。

3 兵庫の風土と人々の情熱が 酒米の王様を育てています



田植えや収穫体験、農家との触れ合いができるプログラムも予定されています。

酒造好適米として全国に名をとどろかす「山田錦」は、大粒で心白が中央にあり、タンパク質含量が少ないのが特徴。香り、味わいともに優れた日本酒に仕上がるため、飲み手にも酒造家にも人気の品種で、“酒米の王様”と呼ばれています。始まりは1923(大正12)年、県立農事試験場(現県立農林水産技術総合センター)で「山田穂」と「短稈渡船」を交配。産地適応性の試験等

を経て、36(昭和11)年に「山田錦」が誕生しました。以来、県内の生産者の手で大切に育てられてきました。中でも北播磨地域は特A地区に認定される産地。夏場の昼夜の寒暖差、粘土質の土壌が最高品質の酒米を育てています。三木市の「山田錦の館」では、歴史を学ぶ展示見学や日本酒の試飲体験などができます。

「山田錦」を使った日本酒は逸品ぞろい。全国の辛党をうならせています。



©(一財)神戸観光局